



「村民部会」を設置 村民の声をより多く、計画策定へ

村は、村民の声をより多く計画に反映させるため、身近な課題をテーマごとに検討する「村民部会」を設置しました。新たに立ち上げられた4つの部会は、避難指示区域解除後の村民の暮らしについて、「教育」「暮らし」「医療・福祉・高齢者」「農地保全・営農再開」の4つのテーマごとに、戻る人、戻らない人、すぐには戻れない人それぞれの立場から「戻るまで、戻ったら」の内容を検討し、今後の生活再開や復興・復興策に反映していきます。

構成メンバーは、4部会それぞれ、村民、有識者、村役場担当者等をメンバーとしており、51人の委員のうち全体の約半数、26人が村民となっています。会議資料を村ホームページ・タブレットに掲載しますのでぜひ、ご一読下さい。

主な検討内容

	教育	○児童・生徒の帰村見通し、学校施設の再開のあり方等 (例) 学校施設の改修、教育プログラムの検討等
	暮らし	○住環境の見通し、地域コミュニティの維持等 (例) 住宅の再建・確保、商店、郵便、金融等
	医療・福祉・高齢者	○高齢者等の帰村見通し、医療・福祉サービスのあり方等 (例) 健康診査・健康相談・モニタリング、訪問介護体制等
	農地保全・営農再開	○営農再開の見通し、就業・雇用確保等 (例) 除染後農地の保全、非食用作物による土地利用、 いいたて再生基金運用の検討等



▲課題をテーマごとに検討する「村民部会」



▲菅野村長から赤坂委員長へ諮問を行いました

村は、委員会に対し、①帰村環境の整備について②一人ひとりの支援の着実な実施と拡大について③村内拠点エリアの早期整備についての3つの事項を諮問しました。

これらの事項に対し、部会では「戻る」「戻らない」「すぐには戻れない」それぞれの立場で、避難指示区域解除時に、当面どのような環境整備や支援が必要か、また長期的にはどう復興を進めるかについて、具体的に検討することとしています。

部会で話し合われた内容は、推進委員会に提案され、さらに議論・検討を重ね、計画書に盛り込まれます。

復興計画の策定状況は今後広報誌の中でもお知らせする予定です。委員会では平成27年2月には答申を出す予定です。



いいたてまでの復興計画(第5版) 第1回推進委員会・村民部会合同会議の様子

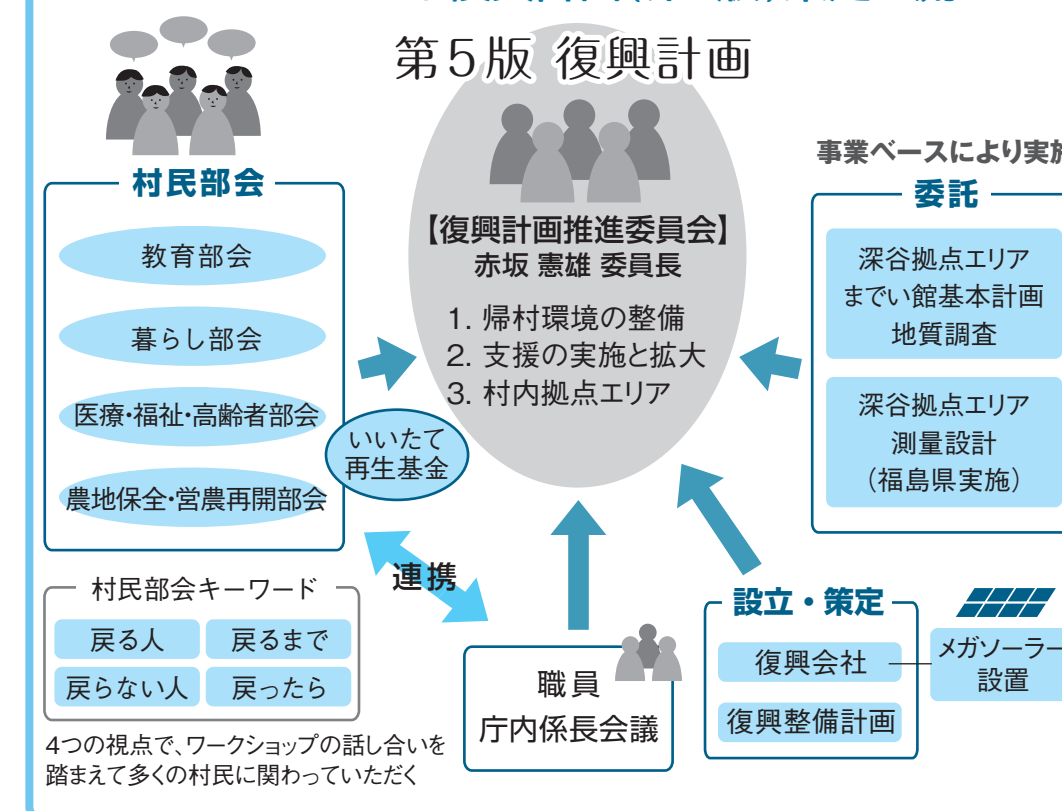
村がこれまで策定を進めてきたいいたてまでの復興計画(第4版)(案)は、6月20日に開催された村議会原子力発電所事故災害復興対策特別委員会において承認を受けました。

これを受け、復興計画(第5版)策定のため、7月25日、第1回推進委員会・村民部会合同会議が福島市のホテルを会場に行われました。会議では、はじめに委員への委嘱状交付が行われ、続いて村から委員会への諮問を行いました。菅野村長からは「これまでの復興計画をいかに実行していくかが第5版の役割。計画だけでなく、実行できるように皆さんのアイデア・知恵を頂きたい」とのあいさつがありました。

また、この推進委員会の委員長に選出された赤坂憲雄学習院大学教授からは「復興計画の中に、村民の皆さんの声を取り入れることが大切。それぞれの選択をした人に何ができるのか、ひとつひとつ議論して策定していきたい」と抱負が述べられました。

この後、出席者の紹介や会議の今後の進め方について説明があり、第5版策定がスタートしました。

いいたてまでの復興計画(第5版)策定の流れ



村民を待つふるさと
復興への歩み
飯舘村
全村避難から3年

いいたてまでの復興計画(第5版)策定はじまる